



300
44

昭和新選碑法帖大觀
第二輯第七卷
漢曹全碑

始



300
44

漢
曹
全
碑



新昭
選味
碑
法
帖
大
觀

漢
曹
全
碑



第
七
卷

第
二
輯

區都尉丞右扶風陰麋侯相金城西部都尉北地
太守父琇少貴名州郡不牽早世是以位不副德
君童齒好學甄極矣緯無文不綜賢孝之性祖生
於心收養季祖母供事繼母先意承志存亡之敬
禮無遺闕是以鄉人爲之誥曰重親致歡曹景完
易世戴德不隕其名及其從政清擬夷齊直慕史
魚糜郡右職上計掾史仍辟涼州常爲治中別駕
紀細萬里朱紫不謬

漢曹全碑

史通人修

圖

君諱全字景完敦煌效穀人也其先蓋周之胄武
 王秉乾之機翦伐殷商既定爾勲福祿攸同封弟
 叔振鐸子鬻國因氏為秦漢之際曹參共輔王室
 世宗廓土序竟子孫遷于雍州之郊加止右扶風
 或在安定或處武都或居隴西或家敦煌枝分葉
 布所在為雄君高祖父敘舉孝廉武威長史已郡
 胸忍令張挾居延都尉曾祖父述孝廉謂者金城
 史夏陽令蜀郡西部都尉祖父鳳孝廉張挾屬



君諱全字景完
 敦煌效穀人也
 其先蓋周之胄
 武王秉乾之機

前伐段商既定
爾勲福祿永同
封弟叔振鐸于
曹國



秦之際曹衆夾
輔王室世宗廓
天子之郊
不遷

人右扶風或在
安定或靈武都
或居隴西或家
教煌枝分葉布

所為雄君高
祖父教舉孝廉
或威長史已郡
胸忍今張掖居

蜀城遷延
郡長李都
西史廉尉
部夏謂曹
都陽者祖
尉令全父

相右拔祖
全扶廉久
城風國鳳
西階者李
部廉尉廉
都侯丞張

尉尉尉尉
尉尉尉尉
尉尉尉尉
尉尉尉尉
尉尉尉尉
尉尉尉尉
尉尉尉尉
尉尉尉尉

好學好學
好學好學
好學好學
好學好學
好學好學
好學好學
好學好學
好學好學

供事繼母先意
承志存亡之敬
禮無遺聞是
鄉人為之諺曰

重親致歡曹景
完易世載德不
隕其石以其次
政齊直

中 辟 職 兼
別 涼 上 史
駕 州 計 魚
紀 常 掾 廳
綱 為 史 都
萬 治 仍 右

里 未 紫 不 謬 出
典 諸 郡 彈 枉 糾
邪 貪 暴 洗 心 周
儻 服 德 遠 近 憚

威 建 寧 二 奉 舉
孝 廉 除 郎 中 拜
西 域 戍 部 司 馬
時 疏 勒 國 王 和

德 敘 入 慕 位 承
洪 職 貢 君 興 師
不 討 有 苑 曠 之
仁 不 醜 之 東 攻

賦 施 泉 蘇
振 面 盛 豎
旅 縛 年 戰
諸 歸 諸 謀
國 死 貴 若
禮 是 和 涌

產 風 以 遭
弟 櫻 薄 且
憂 里 官 六
慕 令 還 百
官 遭 右 世
續 問 扶 夫

墨禁四潛隱家
巷七奉光和一六
奉須舉孝廉七
奉三月除郎中

拜酒宗祿福長
既張角赴年
幽冀魏豫荆楊
向時並動而縣

民郭家等俱造
進厥燔燒城寺
萬民瞎擾人裏
不女三郡告急

羽檄仍至亦
聖王詔羣僚
感曰君哉轉拜
邵陽令收合餘

燼 艾 夷 殘 逆 絕
其 本 根 蓬 訪 故
在 奇 羣 儀 犬 工
啟 王 畢 等 恆 民

之 要 存 慰 高 丰
撫 育 解 寘 以 家
錢 糴 木 棄 禾 賜 瘠
旨 大 女 桃 嬰 等

合七首藥神明
膏親至離亭部
文王案程橫等
賦與有疾者咸

蒙瘵候惠政之
流甚於置郵百
姓弱負反者如
雲散治庸屋市

肆列陳風雨時
首歲獲豐年豐
夫織婦百工載
思縣前以河平

元來遭白茅
水決害退於戊
死之間興造城
郭是後舊姓及

狷身之士官位
不益君乃闕縉
紳之徒不濟開
幸寺門承望集

獄鄉明而治庶
使學者李儒彙
規程寅等各獲
人屬之秋廓廣

聽事官舍廷曹
廊閣升降揖讓
朝覲之階費不
出民役不平時

門下掾王啟錄
事塚王畢王薄
王止乃曹塚夫
尚乃曹史王相

等嘉莫奚斯夸
甫之美乃共刊
石紀功其辭曰
懿明后德義章

賁王虔旅鬼方
威布烈安殊荒
還師旅臨槐里
盛孔懷赴塵紀

結艾特峻
官不愛廷
寺臣命賦
開寧理燔
幸黔殘城
門苗起

君吏鄉同
高築明嗟
外政洽峨
極民東望
鼎給沾半
是足渥山

中平二年十月
丙辰造



處士河東及氏岐茂孝本二百
義士河東安邑劉政元方千
義士侯表文憲五百
義士潁川臧乾元乾五百
義士安平郝博季長二百

縣三老商星伯禘五百
鄉三老司馬集仲裳五百
徵博士李儒志復五百
故門下祭酒姚之辛卿五百
故門下掾王敞元方下

故門下議掾王畢世異千
故督郵李譚伯嗣五百
故督郵楊勳子豪千
故將軍令史董溥建禮三百
故郡曹史守丞馬訪子謀

故郡曹史守承楊榮長蔡
故鄉耆夫冢駭安雲
故功曹任子流
故功曹曹毛定吉
故功曹王河孔達

故功曹王吉子隋
故功曹王時孔良五百
故功曹王歎子上
故功曹素尚孔都二
故功曹王衡道興

故功曹楊休當女五香
故功曹王衍文珪
故功曹秦杼漢都干
故功曹王詡子弘

連

故功曹杜安元進

故賅曹史王授文博

起

故金曹史精明文亮

故集曹史柯相文集

故曹史趙福文
故法曹史王政文
故塞曹史杜苗多始
故塞曹史吳產孔五百
部攝趙吳文高

曹史高廉吉
前仲謀元

故郵書掾姚閔升臺

故市掾王尊文憲

故市掾杜靖彦淵

故主簿鄧化孔彦

故門下賊曹王翊長河

故市掾王理建和

故市掾庾播壽舉

故市掾楊則孔則

故市掾程璜軋休

故市掾扈安子安干

故市掾高真顯和千
故市掾王瓊季晦
故市掾秦並靜先

漢 曹 全 碑 解 說

曹全碑は後漢の靈帝の中平二年に建碑されたものである。頂度吾が皇紀八百四十五年に當る。明の萬曆年間に出土したもので文字頗る完好にして、彫鏤亦絶佳なる爲め、古來より隸書模範として最も珍重されたものである。殊に我國に於いては隸書の祖師ともいふべきもので、明治中期以前の隸書は殆んど範をこの曹全碑にもとめた有様である。我が明和のころ伊勢の韓天壽が支那人に托して拓本を取りよせ、これを模刻して同好に頒つたのが抑の初で、爾來隸書といへば曹全碑といふことになり、石碑に、彫刻に、看板に、諸家が擧つて曹全の規格によつて隸書をものしたものである。餘り流行に過ぎたためか、乃至は表現を一規格のみにもとめたためか、一種の習氣が生ずる様になつた。その反動として楊守敬は、この碑を排して、衡方、西狹、邨開頌など古拙の味のある漢碑をしきりに推奨したものである。従つて明治中期以後、割合に曹全碑を習ふ者少く、今日に至るも、隸書研究として、この碑を等閑に附せられる傾向が多い様になつた。然し詳にこの曹全の字体を觀ふに、字畫頗る完好にして、姿態優美典麗で、且つ筆力暢叙雄道、漢碑中でも確に一特色の持つ隸書である。漢隸の中でも西狹、張遷の如く方勁古拙、截鐵斷釘、よく隸書の形質を露出せるものもあれば、又禮器、華山廟の如く謹嚴端正なものもあり、又封龍山や石門の如く、飄逸洒落の隸書もあつて、漢碑隸書の風格は區々様々で、こゝに漢隸の藝術的興味がある譯である。この點から見、曹全碑は、稍女性的で、素樸淳古の趣を缺くとはいへ、姿態の優美な、筆勢の清潤流麗な、而かも規格の端整な、隸書として學ぶべき、一方面の代表であることは斷言出来ると思ふ。唐に虞世南の廟堂碑が有る如く、漢隸模範としては、實に尙ぶべき一好資料といふべきである。竹雲題跋に漢隸に三種あり、一種は古雅西嶽是れなり、一種は方整婁壽是なり、一種は清

瘦、曹全是なりとある如く、確かに曹全碑は漢碑中の一方面を代表する逸品と斷言出來得る。

碑の高さ七尺六寸、廣さ三尺七寸、二十行、行四十五字よりなり、碑陰は五列首列は僅に一行、二列は二十六行、三列は五行四列は十七行、五列は四行になつてゐる。碑陰は本文比して字体飄逸洒落實に風趣に富んだもので、山本竟山翁などは、本碑に勝る數等と推賞された事を記憶してゐる。出土の初めには、因字の半が磨泐してゐるのみで他は全字完好であつたものである。其の後日字と悉字を損し、清朝國初に孝字周字を損缺してゐる。又清朝に至つて御諱を避けて、乾字の上下の豎畫を連ねて車扁にしたものである。故に悉字が未損で、乾字の中畫を穿たないものは明拓の証查である。

本大觀中に收録のものは海内第一の初拓本と稱せられる有名な明拓本であることを附加して置く。

漢曹全碑釋文

君諱全字景完。敦煌效穀人也。其先蓋周之胄。武王秉乾之機。翦伐殷商。既定爾勳。福祿攸同。封弟叔振鐸于曹國。因氏焉。秦漢之際。曹參夾輔王室。世宗廓土。斥竟子孫。還于雍州之郊。分止右扶風。或在安定。或處武都。或居隴西。或家敦煌。枝分葉布。所在爲雄。

君高祖父敏。舉孝廉。武威長史。巴郡胸忍令。張掖居延都尉。曾祖父述。孝廉。調者金城長史。夏陽令。蜀郡西部都尉。祖父鳳。孝廉。張掖屬國尉丞。右扶風。陰廉侯相。金城西部都尉。北地大守。父瑋。少貴。名州郡。不幸早世。是以位不副德。君童訛。好學。甄極。芝緯。無文不綜。賢孝之性。根生於心。收養季祖母。供事繼母。先意承志。存亡之敬。禮無遺闕。是以鄉

人爲之諺。曰。重親致歡。曹景完。易世載德。不隕其名。及其從政。清擬夷齊。直慕史魚。歷郡右職。上計。緣史。仍辟涼州。常爲治中。別駕。紀綱萬里。朱紫不謬。出典諸郡。彈枉糾邪。貪暴洗心。同儕服德。遠近憚威。

建寧二年。舉孝廉。除郎中。拜西域戊部司馬。時疏勒國王和德殺父篡位。不供職貢。君與師征討。有吮臙之仁。分醪之惠。攻城野戰。謀若涌泉。威卒諸賞。和德面縛。歸死。還師。振旅諸國。禮遺且二百萬。悉以薄官。遷右扶風。槐里令。遭同產弟憂。棄官。續遇禁網。潛隱家巷。七年。

光和六年。復舉孝廉。七年三月。除郎中。拜酒泉祿福長。詆賊張角。起兵幽冀。交豫荆楊。同時並動。而動而縣民郭家等復造逆亂。矯燒城寺。萬民騷擾。人懷不安。三郡告急。羽檄仍至。

于時聖主諮譚羣僚。咸曰。君哉。轉拜郃陽令。收合餘燼。芟夷殘逆。絕其本根。遂訪故老。商量俊艾。王敞。王舉等。恤民之要。存慰高年。撫育鰥寡。以家錢糴米。稟賜。拜盲大女桃斐等。合七首。藥神明膏。親至離亭。部吏王臯。程橫等。賦與有疾者。咸蒙瘳。悛惡政之流。甚於置郵。百姓纏負。反者如雲。戢治廡屋。市肆列陳。風雨時節。歲獲豐年。農夫織婦。百工戴恩。縣前以河平元年。遭白茅谷水災。害退於戊亥之間。興造城郭。是後舊姓及脩身之士。官位不登。君乃閱縉紳之徒。不濟開南寺門。承望峯嶽。鄉明而治。庶使學者李儒。樂規程。寅等各獲入爵之報。廓廣聽事。官舍庭曹。廓閣。升降揖讓。朝觀之階。費不出民役。不于時。門下掾王敞。錄事掾王舉。主簿王歷。戶曹掾秦尙。功曹史王顯等。嘉慕奚斯。考甫之美。乃共刊石紀功。

其辭曰。

300
44

懿明后德義章貢王廷征鬼方威布烈安殊荒還師旗臨槐里感孔懷赴喪紀嗟逆賊燔城市特受命理殘圯芟不
臣寧黔首繕官寺開南門闕峨嵯望華山鄉明治惠沾渥吏樂政民給足君高升極鼎足
中平二年十月丙辰造

有所繼取

昭和十一年九月二十二日印刷
昭和十一年九月二十五日發行

新選 碑法帖大觀 第二輯第七卷
漢 曹 全 碑

編輯人 田 中 和 市
發行所 寧樂書道會

印刷所 玉石社 玉木印刷所
印刷人 玉木 源 郎

300
44

終